

## ヴェール

俯くような後姿を静かに追い  
照りつける陽射しに乾いた石畳を歩いて  
僕は彼の横顔を初めて目にし  
そして、胸が早鐘のようにどくどくと打ち始めた

その顔に刻まれていたものを覗き見た  
そのことの勝利感と  
それとは逆の  
血の気の引いてゆくようなおぞましさ

その顔に刻まれたシニカルな唾棄  
敗北に打ちひしがれた力ない視線  
哄笑を押し隠した口元  
溢れるばかりに過剰な自意識に塗れた顔

それら全てが見られることを知っているかのように  
俯きながらも自らを路上にさらけ出し  
ばら撒きながら  
彼はどこかへ急いでいた

僕は、眩暈を覚えながらも  
まるで蛇の尾に魅入られるように  
その後を追った  
なかば、食い尽くされたいという欲望に吞まれながら

服屋の角を左に折れ  
古びたアーケードを抜け  
小さな石造の橋を渡り  
僕たちは数珠つなぎになって歩いていった

幼児らの遊ぶ公園の木立ちの下を抜け  
薄汚れたアパートとアパートの間の路地を抜け  
鉄の手摺のある急な階段を昇り  
彼は、とある門の中へと消えた

私は、やや後ずさりして電柱の影に身を置き  
その建物の窓が開くのを待った

けれども、その窓が開かれることは遂になかった

私は、とぼとぼと歩き始めた

来た道を思い出し

再び訪れることができるよう、記憶に留めながら

しばらくして私は、ふと気付いた

ある気配を・・・

その途端

私の中で何かがさらけ出され

同時に薄いヴェールがかけられた

(2005.7.18)